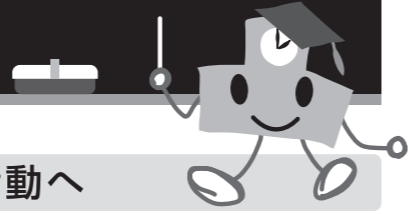


小学校の事例 白石区 東白石小学校

サケの学習をとおして 川や環境について学ぶ取組。

サケを題材に発達段階に応じた学習活動を。豊かな自然は人間にとっても快適で多くの生物がつながりあい、バランスをとっていることを長いスパンで学ぶ取組に。



はじまり 5年生の女子児童の提案から全校活動へ

昭和54年2月、カムバックサーモン運動をテレビで知った当時の5年生の女子児童が、学級会で『豊平川にサケを呼び戻そう』という市民運動に協力しませんか』と提案したことが支持され、学級から学年、そして全校の活動へと広がっていった。

今年で31年目になるこの取組は、今や学校生活の一部として取組まれるようになってきている。



お腹に栄養の袋をつけた稚魚

内容 月寒川の清掃とサーモンプロジェクトの取組

1年間をとおしての活動計画は次のとおりだ。4月下旬に、全校児童が地下鉄で豊平川まで行き、サケの稚魚の「放流式」を行う。たて割り学年の組み合わせでペアを組み、6年生は1年生と、5年生は3年生と、4年生は2年生と一緒に行動をする。

6月下旬には、3年生以上の児童全員で、月寒川の清掃をする。この活動を通して、「サケだけでなく人間にも住みやすい環境」ということを学び、美化にとどまらない環境への意識を高めている。

10月から4月にかけては、5年生が総合的な学習の時間を利用し、30時間をかけて「サーモンプロジェクト」(遡上観察、受精式、飼育観察、サケをとりまく諸問題の学習、放流式の発表)に取り組む。

雨天により遡上観察に行けなかった今年度は、「さけ科学館」の方に来てもらい、お話を聞かせていただいた。その中でサケの回帰率の話や自然受精卵と人工受精卵の育ちの違いなど、たくさんのことを教えてもらい、サケについて学びを深めた。

飼育観察は、校内の「さけ学習館(本校のサケ委員会が昭和60年(12月)度に設立)」にある「さけ観察シート」に毎日の様子を記入する形で、5人ずつ2週間を受けもつ当番制で行っている。そして現在は、サケを新聞などのニュースにして、発信しようという取組が進んでいる。



12月初旬「目」ができる

産卵から放流までのサケの話

11月に産卵、受精をし、1月初めにはサケの卵からサケの赤ちゃんが生まれる。2月いっぱいはおなかに栄養の袋をつけてじっとしている。3月には3センチくらいの稚魚に育ち、自由に水槽の中を泳ぎ回るようになる。この時期から金魚の餌を与えはじめる。そして4月に放流を行う。

効果 サケの環境を学び、人の環境を思う

子供たちは、サケの回帰性(生まれた川のおいさを頼りに戻ってくる、その川が汚れておいさが変われば戻ってこなくなってしまう)を知り、サケが戻ってくる川環境は、人間社会にとっても大切な役割を果たしているということをこの体験活動を通じて気付く。そして、たくさんの生きものがつながりあい、バランスを

取って生きていることを学ぶとともに、人の住む自然環境について考える意識が育っている。



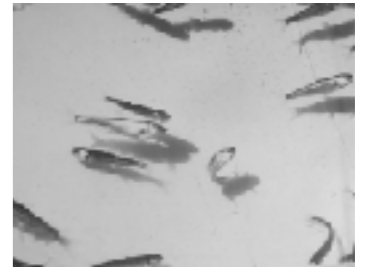
1月はじめ、ふ化の様子

課題 安全への配慮と授業時間の配当が課題

実際に川へ行き、遡上観察や稚魚の放流、川の清掃などを行うため、安全には細心の注意が必要になる。特に、現地までの移動や川で活動を行う場合の安全管理にはとても気を使っている。

現在は、地域への啓発という意味も加えて、PTAにも安全への協力をお願いしている。

また、教育課程の中で行うに当たり、授業時間の配当なども課題となり、どの時間で実施していくか工夫していく必要がある。



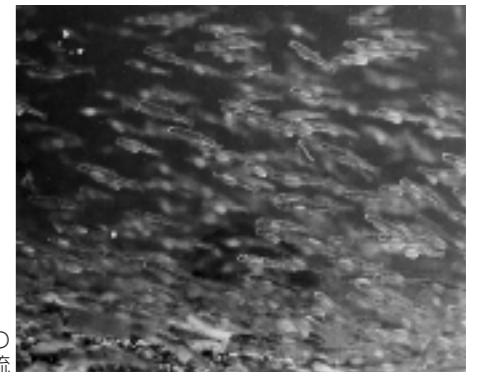
稚魚が3cmくらいになるとえさやりが始まる

今後 発達段階に応じた環境学習を

本校では、サケの学習を通して、命の大切さや住みよい自然環境について学んできたが、現在の札幌市や環境省が進める環境の学習は省エネルギーに重点を置いているため、今後は省エネにつながる環境学習についても深めていきたいと考えている。


また、温暖化など地球規模の環境問題についての学習は、規模が大きすぎて、難しくなってしまう。4年生の学習にリサイクル大作戦として月寒川の清掃、清掃工場の仕事などに関連させて学ぶ機会があるので、身近なごみ問題などから発展させ、「身のまわりのこと=地球のこと」と見方をつなげてあげる必要がある。

噛み砕いて説明をすると、逆に他人事になってしまう場合があるので、発達段階に応じて教えていきたいと考えている。



4月末、4年後の再会を約束し放流

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

6年間でひとつのテーマを完結させるという、長期間の取組で考えていたので、全校の職員、児童、保護者の意識をまとめることがポイントでした。その上で、子どもの理解の深まりを学年に応じて確認し、学習の意義を確かなものにしていくことが、継続して取り組むために大切だと思えます。

様々な問題・課題はできますが、宇宙飛行士の毛利さんが宇宙から地球を見た時に「日本の海は思っているよりきれいでした!」と発言されていたことから、次世代に、よりよい環境を残していくために、川や海をとおして自然環境の問題に取り組んでいくことも大切だと感じています。